

オアシス新聞

第二十二号

トンボいろいろ何色メガネ?

なんとなくトンボの季節といえば秋だと思っただけでしょうか。もちろんトンボは他の虫と同じく冬には見られませんが、種類は違えど春から秋までトンボを見ることはできます。そして日本には200種類以上のトンボがいると言われているので、私たちが普段目にするトンボはほんの一握りということになります。

もっともおなじみのものはシオカラトンボでしょう。塩をふいたようなブルーグリーの体色をしています。これは成熟したオスで、メスは淡い褐色をしていることから『麦わらトンボ』などとも呼ばれます。よく見ると青っぽい色の眼をしているので、とんぼのめがねは水色めがねでおなじみの童謡は、シオカラトンボのことを歌っているのかもしれないね。

シオカラトンボに似ていますが胴体が太く、色合いも濃いオオシオカラトンボという種があります。どちらかというオオシオカラトンボの方が様々な環境に適応しやすいため、目につきやすいかもしれません。オオシオカラトンボのメスは成熟すると黒地に鮮やかな黄色い紋が現れます。

体の大きな種にギンヤンマやオニヤンマがいます。ギンヤンマは腹部に銀白色の斑紋をもち、開けた場所で悠々と飛び回ります。オニヤンマは腹部が虎柄の鬼のパンツのように黄色と黒の派手な模様をしており、日本最大のトンボであることから飛んでいてもよく目立ちます。

そして情緒あるトンボと言えば赤とんぼ。赤とんぼは秋にしか見かけないかと思いきや、初夏のころから平地でも見かける種もいます。赤とんぼと一口に言ってもそれほど赤みを強く帯びない種もいる中、シヨウシヨウトンボなどは絵にかいたように全身真っ赤なトンボで、まさにイメージ通りの赤とんぼです。ただシヨウシヨウトンボは初夏から目にするので、アキアカネとなるでしょうか。

本当に様々な種類がいるトンボの仲間。皆さんが身近でよく見かけるトンボはなんですか？



トンボの交尾はちぎと特殊。他の虫は雌雄の尾部同士を合わせて交尾をしますが、トンボの場合、オスは精子を自分の腹の付け根あたりにある交尾器に移してまき、そこにメスの尾部にある生殖器が合わさり交尾となります。オスは尾部にある付属器でメスの頭部をつかむようにして固定します。だからトンボは不思議な形ですが、まっているんですね。

トンボの幼虫「ヤゴ」はかなりの肉食系。水中でじっと身をみそめ、獲物が近づくと目にもとまらぬスローで伸ばし挿入します。

あわわ、
ラヤーツ